

心理学科 1 年生の進路希望と進路知識 ——2002 年度と 2003 年度の入学生と比較——

水 野 り か*

問題と目的

心理学には、心に問題を抱える人々を対象に、その原因を探り解決へと導く臨床心理学と、一般の人々を対象に、その発達過程、社会的相互作用、学習と記憶、知覚・認知過程、等のメカニズムを探る様々な領域の実験系心理学がある。しかしながら、昨今のマスコミ主導による臨床ブームは、あたかも臨床心理学だけが心理学かのような印象を与えてしまっている。

そこで水野・西口（2003）は昨年、新設された心理学科の新入生の心理学への興味・関心や進路知識等を問うアンケート調査を実施した。そして、彼らの入学前の臨床心理学への興味・関心がやはり、マスコミ等に影響された偏ったものであることを見出すとともに、半期の教育を受けた後には臨床心理学の正しい理解が生まれるだけでなく、その関心が発達、学習、教育、社会、認知、性格等の様々な実験系の心理学に幅広く分散することを明らかにした。つまり、内容を正しく知りさえすれば学生の関心は必ずしも臨床心理学に偏らないのであり、だからこそ、歴史の長い国立大学の心理学科には、様々な領域に関心を持つ学生が満遍なく存在してきたのだと思われる。

ところが、多くの私立大学は、その臨床ブームに便乗して臨床心理学に特化した心理学教育を行い始めている。しかしながら、一般の人間の心理も知らないで、問題を持つ人間の心理を理解することはできない。また、心理学

* 人文学部教授—学習心理学・認知心理学・認知科学

系の学部を出たと言っても、たった2年間指定大学院の博士課程前期課程(修士課程)で臨床心理教育を受けただけでは(1種の場合。2種の場合はこれに加えて1年以上の臨床経験が必要)、臨床経験・実力ともに十分だとは言えない⁽¹⁾。また、仮にそうした形で臨床心理士の資格を取得し得たとしても、人気のあるスクールカウンセラーは現在飽和状態にあるだけでなく、現時点では単なるパートタイムで何の身分保障もないのが現実であり、また、病院等への就職はさらに難しい。加えて、近い将来、医学部が育成する医療心理士が厚生労働省で国家資格として認められる可能性もあり、そうなれば、臨床心理士の病院等への就職や、ましてや開業は、もはや不可能となる。

中部大学の心理学科は、こうした先の見えない一時的な臨床ブームに便乗することなく、臨床心理学に特化しない、幅広い心理学を満遍なく教育することのできる教授陣・カリキュラムを有しており、それは、歴史の長い国立大学の心理学科に匹敵するほどのものである。実際、2002年度に入学した現2年生の興味・関心は現在、様々な領域に分散しており、各自がその最も興味ある領域の専門科目を集中的に履修している。

したがって、本学心理学科のこうした特徴を、高校生に十分に伝えるような広報活動を行えば、幅広い関心を持つ、益々多くの学生が、入学を希望するのではないかと考えた(水野・西口, 2003)。そして、心理学科教員は、この1年間、こうした正確な情報を高校生に与えるよう、様々な広報活動を行ってきた。

本研究では、そうした広報活動の成果が実り、本学心理学科のみならず心理学自体に関する正しい知識を持った学生が入学したか否かを調べるため

(1) 臨床ブームが訪れる前の1990年代初頭までは、臨床心理を志す学生は、学部生でも、実験系心理を志す学生と同様の講義や実験演習をこなすことに加えて、教官のマンツーマンのスーパーバイズのもとに相談室業務を補佐したり、障害児療育等に関わる種々の実習に参加したりと、かなりの臨床活動・訓練を積みながら、卒業研究を行っていた。そして、非常に限られた学生だけが大学院の博士課程前期課程・後期課程へと進み、大学院だけでも約5年もの臨床活動と研究を経て独立した実力ある臨床心理士として、臨床活動に携わるポストに進んでいた。

しかしながら臨床志望の学生が増大した昨今では、実験系心理の教育が軽視されがちになるとともに、臨床志望の学部生のマンツーマンの指導や実習先の確保がかなり難しくなっているのが現状である。また、大学院への入学者が増大するとともに、そのほとんどがたった2年の前期課程で大学院を終え、臨床心理士を目指している点も、当時とは大きく異なる。

に、昨年と同様のアンケートを2003年度入学の二期生に対しても実施し、これを昨年のデータと比較するものとした。加えて、昨年とは異なり、入学直後と半期の教育後にすべての調査を2度実施し、興味・関心だけでなく、すべての側面でどのような変化が認められるかについても明らかにしたいと考えた。

方 法

被調査者 心理学科1年生94名中83名。

調査日 フレッシュマン・ゼミAの最初と最後の講義日である平成15年4月9日と7月2日。

調査項目 水野・西口(2002)にほぼ準じ、1は、4月9日用が入学前に興味・関心のあった心理学の領域(自由記述1項目)、7月2日用がフレッシュマン・ゼミを受けてみて最も興味・関心を持った心理学の領域(自由記述1項目)、以下は共通で、2.心理学以外の領域を含めた興味・関心(9項目)、3.進路希望(12項目)、4.進路・職業に関する知識(9項目)、5.心理学科への希望(自由記述1項目)の、計42項目であった(Appendix)。自由記述以外は、「1.全然ない」～「5.非常にある」等の5件法で評定させた。

結果と考察

1. 興味・関心のある心理学領域

2002年度と2003年度入学直後の比較 自由記述された領域を、重複を許してカウントした。2002年度と2003年度では被調査者数が大きく異なるため(2002年度:59名)、Figure 1には、パーセントで表示した。

特に目立つのは、2003年度入学生では、1.心理学全般と記述した者が著

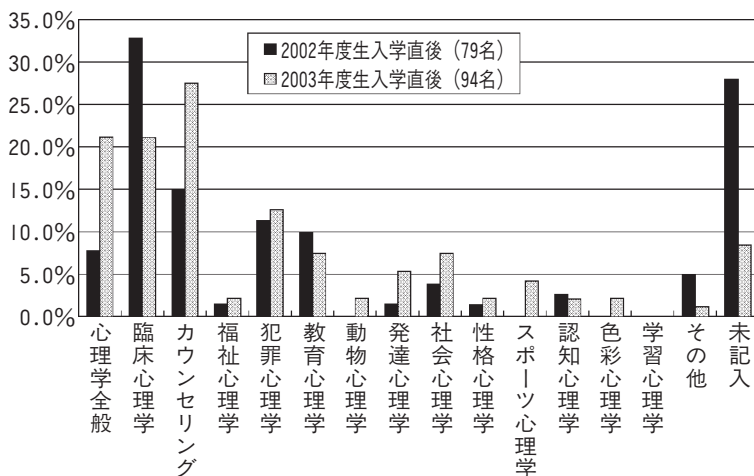


Figure 1. 入学直後の興味・関心の 2002 年度と 2003 年度の比較

しく増え、2. 未記入の者が顕著に減り、3. 具体的な心理学領域を挙げた者、及び、その領域の種類（動物心理学、スポーツ心理学、色彩心理学等）が大幅に増えたことである。

1の結果は、本学科が心理学全般を満遍なく教育する学科であるという情報が知られるようになってきたことを端的に示しており、過去1年間の広報活動の成果を示すものだと考えられる。

一方、2と3の結果は、2003年度の入学生が、入学前に心理学にどのような領域があるかについての具体的な情報を集め、自らの興味・関心のある領域を見出したことを示していると考えられる。そして、これには、開設後に設置した心理学科のホームページのカリキュラム情報、講義情報が役に立ったと考えられる。なぜなら、本年度の多くの1年生から、入学の決定に際しては、ホームページの情報を利用したという声が聞かれたからである。

実際、高校生が受験する大学を決定する夏休み後の9月、10月の心理学科ホームページへのアクセス数を調べてみると（Figure 2 参照。8月のデータは事務局休暇のため公開されていない）、9月は驚くべき事に、17学科中1位

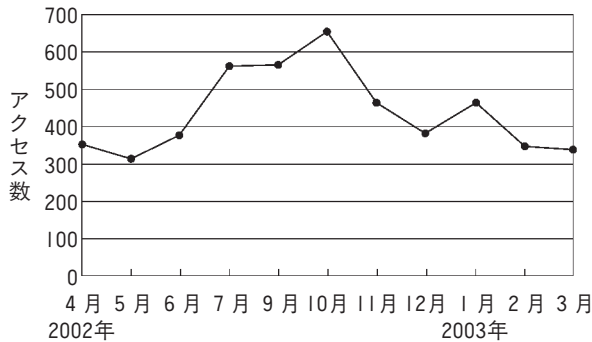


Figure 2. 心理学科ホームページへのアクセス数の推移

(561)、10月 は機械工学科の1位(736)に次ぐ2位(653)であった。特に9月は夏休みを含んでおり、講義はほとんどないため、ほとんどのアクセスは学外からだと考えられる。

よって今後も、本学心理学科の情報をできるだけ多くホームページに掲載し、高校生に、正確な情報を伝えるようにしていきたい。

2003年度入学直後とフレッシュマン・ゼミ後の比較 上と同様、重複を許してカウントした数のパーセンテージを Figure 3 に示した。

ここで目立つのは、1. カウンセリングという単なる活動を書く者が減り、臨床心理学という領域を記述する学生が増えたこと、2. 心理学全般とするのではなく、各領域、特に、教育心理学、社会心理学、性格心理学、認知心理学、学習心理学という具体的な領域を挙げるものが増えたことである。特に、本年度は昨年度よりもフレッシュマン・ゼミAの内容を網羅的、かつ、体系的なものに整理したため、主要な領域の心理学に満遍なく興味・関心が分散したようである。実際、各領域の心理学を臨床系、実験系で分けてカウントすると、臨床系が36、実験系が61となり、入学直後の60対36という比率が見事に逆転している。

以上の結果は、昨年と同様、内容がわかれば、学生の興味・関心は必ずしも臨床心理学に偏るものでないことを示している。

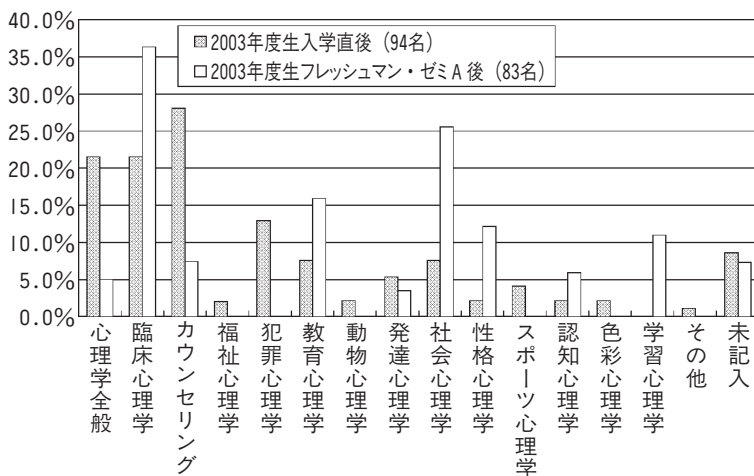


Figure 3. 入学直後とフレッシュマン・ゼミA後の興味・関心の比較

2. 心理学以外の興味・関心のある領域

これ以降の評定では、広報活動、フレッシュマン・ゼミAの影響が具体的に想定されていたわけではない。よってこれ以降は、2002年度入学直後、2003年度入学直後、及び、2003年度フレッシュマン・ゼミA後のデータのすべてを比較し、その変化を考察する。

Figure 4に、上記3種のデータを示した。これを見るとわかるように、心理学以外の領域への興味・関心は、2002年度と2003年度で非常に類似している。

したがってここでの問題は、昨年と同様、本学ではほとんど扱わない、テレビ番組で扱われたような犯罪者のカウンセリングへの興味・関心が高いことにある。また、臨床心理学に関心があるにもかかわらず福祉や重度心身障害児の療育といった領域に対する興味・関心が比較的低いのは問題である。

今後の専門教育では、こうした偏った理解を是正し、臨床心理学の正しい理解を導くような教育が必要だと考えられる。

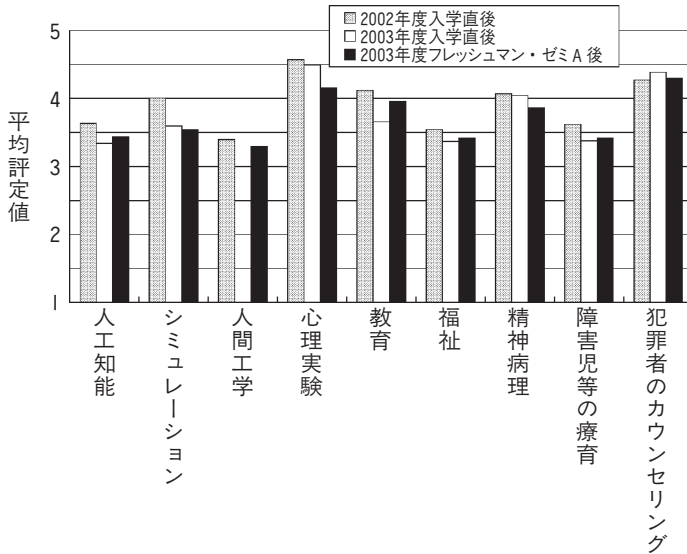


Figure 4. 心理学以外の領域への興味・関心

3. 進路希望

結果を Figure 5 に示す。ほとんどの項目で、2002 年度より 2003 年度入学生の方が、そして、2003 年度生の中でも入学直後よりもフレッシュマン・ゼミ A の後の方が、評定値が下がっているのがわかる。逆に評定値が上がってきているのは、「特に資格にはこだわらず、大学を卒業して就職したい」と、「一般企業に就職したい」といった、心理職にこだわらない現実的な項目である。

1 年次にこうした項目の得点が上昇するのは、現実的ではあるが、やや覇気に欠けるようにも感じられる。しかしながら、冒頭に書いたような臨床心理士やスクールカウンセラーの現状や、心理職の狭き門を考えた場合、彼らのこうした現実的な考え方は、むしろ望ましいのかもしれない。

いずれにせよ、このように一期生と二期生の進路希望の違いが明確になっ

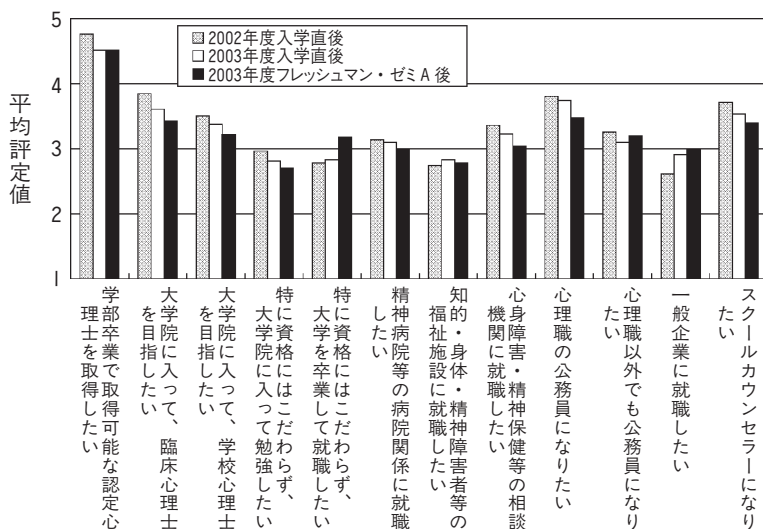


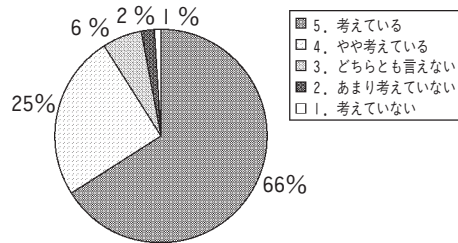
Figure 5. 進路希望

たことは有益なことであり、今後はこれに即した方向で進路指導を行っていく必要があろう。

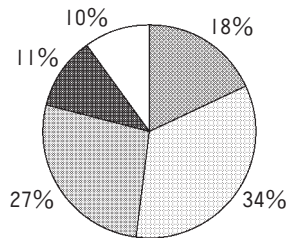
ただし、各項目を個別に見ていくと、2003年度入学生のフレッシュマン・ゼミA後でも、大半の者は認定心理士の資格取得を望んでおり（評定4と5を併せて91%）、また、大学院に入って臨床心理士の資格を取りたい者（52%）、大学院に入って学校心理士を目指したい者（44%）は約半数に及んでおり（Figure 6）、資格志向や大学院志向が強いことがうかがわれる。

本学には平成16年度に、国際人間学研究科心理学専攻が設けられる。そしてそれに伴い、学部では社会の教職免許、大学院では学校心理士のみならず、教職の専修免許（学校心理学）の取得も可能にすべく手続きが進められている。これらは、まさにこうした学生のニーズに合ったものであり、これらが実現すれば、多くの学生の希望を叶えられるはずである。

学部卒業で取得可能な認定心理士を取得したいと考えていますか



大学院に入って、臨床心理士を目指したいと考えていますか



大学院に入って、学校心理士を目指したいと考えていますか

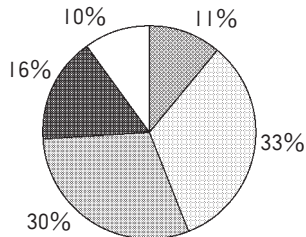


Figure 6. 資格取得・大学院進学希望の内訳

4. 進路知識

結果を Figure 7 に示す。評定値の平均は 3.0 であるので、全般的に著しく進路知識に乏しい傾向は昨年と変わらない。ただし、非常に興味深いことに、2003 年度入学生は、入学直後には 2002 年度入学生に比べて著しく進路知識に乏しかったものの、半期を終えた時点では、2002 年度入学生と同程度、もしくは、それ以上に進路知識を有するようになっていた。

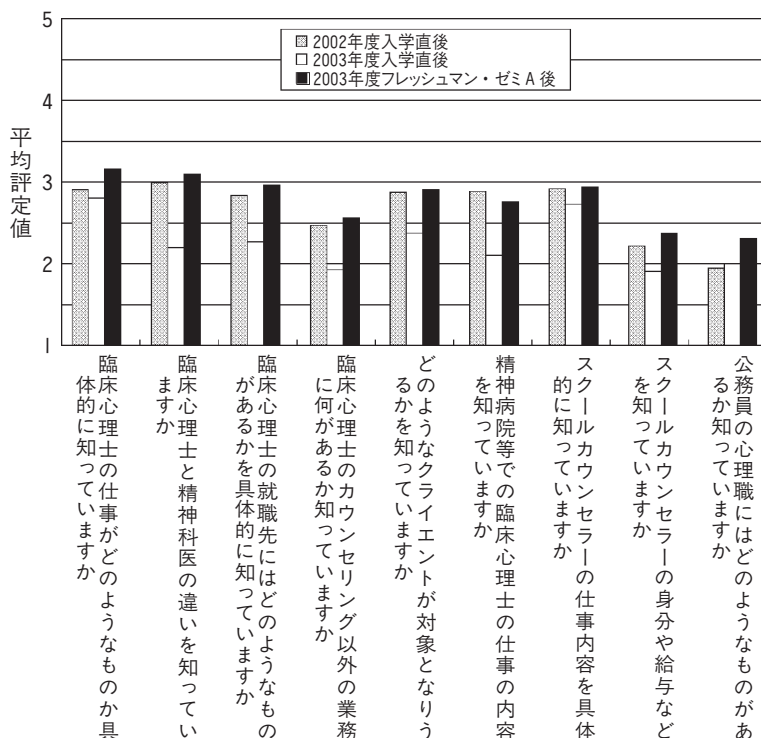


Figure 7. 進路知識

これには、2002年度の入学生の要望に応える形で、水野・西口（2003）に基づいて昨年末から西口のホームページに公務員の心理職を含めた詳細な進路情報を掲載したことが影響している可能性が高い。

このことや、先述したように入学前に関心のある領域を見出していた学生が増えたことは、最近の若者が情報源としてのホームページを非常に頻繁かつ幅広く活用していることを示唆している。

よって今後も、彼らの希望する情報をできるだけ多く、正確に、ホームページに掲載するよう心がけていこうと考えている。

討 論

本研究を通じて、2003 年度の入学生は、2002 年度の入学生に比べて、本学の心理学科が臨床心理学に特化しない学科で、心理学全般を幅広く学習できることをよく知っており、また、心理学の領域についての知識も豊富であることが明らかとなり、2002 年度の広報活動、並びに、心理学科のホームページの有効性が示唆された。また、フレッシュマン・ゼミ A で様々な領域の心理学を満遍なく学ぶことにより、彼らの興味・関心も満遍なく分散したことがわかり、臨床心理学のみならず、実験系の様々な領域の心理学を教育することの重要性も明らかとなった。

進路については、2003 年度入学生は非常に現実的な希望を有している反面、資格取得や大学院入学については依然として多くの者が希望していることが明らかとなり、平成 16 年度からの大学院設置、並びに、教職免許取得を可能にする準備が、彼らのニーズに合ったものであることが示された。

さらに、進路知識については、2003 年度入学生が入学後にホームページを参照して多くの情報を得ている可能性が示され、情報源としてのホームページの有効性が明らかとなり、今後も継続して、種々の情報をホームページに掲載していく必要性が示唆された。

心理学科はまだ、開設後 2 年しか経過しておらず、対外的にも、対内的にも、情報が不足しているのが現状である。

今後も、これから入学する高校生や在学生のために、ホームページをより活用して、本学科の特色と価値、心理学の様々な領域の特色と内容、そして、進路についての情報など、できるだけ多様で正確な情報を提供していきたいと考えている。

引用文献

- 水野りか・西口利文 2003 心理学科1年生の進路希望と進路知識のずれ—問題点の把握と進路指導の指針— 中部大学人文学部研究論集, 9, 175-208。

Appendix. 調査項目

4月9日用

1. 1) どんな心理学が学びたくて入学を決めましたか？ 名称か内容を簡単に書いてください。

7月2日用

1. 1) フレッシュマンゼミを受けてみてどの心理学に一番興味を引かれましたか。名称か内容を簡単に書いてください。

以下共通

2. 各領域への興味についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

	全然 ない	あ ま り な い	ど ち ら と も 言 え な い	や や あ る	非 常 に あ る
2) 人工知能に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
3) シミュレーションに興味がありますか……………	1	2	3	4	5
4) 人間工学（座りやすい椅子を作るなど）に興味がありますか…	1	2	3	4	5
5) 心理実験に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
6) 教育に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
7) 福祉に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
8) 精神病理に興味がありますか……………	1	2	3	4	5
9) 重度心身障害児などの療育に関心がありますか……………	1	2	3	4	5
10) 犯罪者のカウンセリングに関心がありますか……………	1	2	3	4	5

3. 希望する進路についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

考えている
やや考えている
どちらとも言えない
あまり考えていない
考えていない

- 11) 学部卒業で取得可能な認定心理士を取得したいと考えていますか …… 1—2—3—4—5
 12) 大学院に入って、臨床心理士を目指したいと考えていますか… 1—2—3—4—5
 13) 大学院に入って、学校心理士を目指したいと考えていますか… 1—2—3—4—5
 14) 特に資格にはこだわらず、大学院に入って勉強したいと考えていますか 1—2—3—4—5
 15) 特に資格にはこだわらず、大学を卒業して就職したいと考えていますか 1—2—3—4—5
 16) 精神病院等の病院関係に就職したいと考えていますか…………… 1—2—3—4—5
 17) 知的・身体・精神障害者等の福祉施設に就職したいと考えていますか 1—2—3—4—5
 18) 心身障害・精神保健等の相談機関に就職したいと考えていますか …… 1—2—3—4—5
 19) 心理職の公務員になりたいと考えていますか…………… 1—2—3—4—5
 20) 心理職以外でも公務員になりたいと考えていますか…………… 1—2—3—4—5
 21) 一般企業に就職したいと考えていますか…………… 1—2—3—4—5
 22) スクールカウンセラーになりたいと考えていますか…………… 1—2—3—4—5

4. 進路・職業に関する知識についてお聞きします。最もよく当てはまる番号に○をつけてください。

よく知っている
少し知っている
どちらとも言えない
あまり知らない
全然知らない

- 23) 臨床心理士の仕事がどのようなものか具体的に知っていますか 1—2—3—4—5
 24) 臨床心理士と精神科医の違いを知っていますか…………… 1—2—3—4—5
 25) 臨床心理士の就職先にはどのようなものがあるかを具体的に知っていますか … 1—2—3—4—5
 26) 臨床心理士のカウンセリング以外の業務に何があるか知っていますか…………… 1—2—3—4—5
 27) どのようなクライアントが対象となりうるかを知っていますか 1—2—3—4—5
 28) 精神病院等での臨床心理士の仕事の内容を知っていますか…………… 1—2—3—4—5
 29) スクールカウンセラーの仕事内容を具体的に知っていますか… 1—2—3—4—5
 30) スクールカウンセラーの身分や給与などを知っていますか…………… 1—2—3—4—5
 31) 公務員の心理職にはどのようなものがあるか知っていますか… 1—2—3—4—5

5. 要望について

その他、心理学科に希望することがあれば、何でも結構ですので記述してください。
これからの心理学科の参考にします。

（2003 年 8 月 14 日 受理）